

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	1	推進体制の充実			
事業名	生涯学習推進協議会との連携								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	1	社会教育一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市内には生涯学習・社会教育に関する機関・団体などがあるが、相互の連携による事業の展開が十分ではない。そこで、その機関・団体間の連携・協力体制を構築し、家庭・地域・学校を生涯学習・社会教育の場として総合的に捉え、市民一人ひとりが必要とする学習機会を適切に選択できる学習環境づくりを進める必要がある。		生涯学習推進協議会委員が生涯学習の振興を図るため生涯学習に関する諸計画の立案及び調査研究を行う。		生涯学習推進協議会会議の開催。	
活動指標			成果指標		
会議開催に要する予算額			会議回数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
48,000 (円)		0 (円)		0	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報酬	48		財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		48		
合計		48	0	合計		48	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0	0

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
平成22年度は会議が開催されていない。同じく社会教育課に事務局を置く社会教育委員会と内容的に似通っている部分があり、会議の目的に苦慮している。	会議の目的を明確にし、継続して開催すること。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	2		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	1	推進体制の充実			
事業名	社会教育一般管理事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	1	社会教育一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続			

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順			
市内には生涯学習・社会教育に関する機関・団体などがあるが、相互の連携による事業の展開が十分ではない。そこで、その機関・団体間の連携・協力体制を構築し、家庭・地域・学校を生涯学習・社会教育の場として総合的に捉え、市民一人ひとりが必要とする学習機会を適切に選択できる学習環境づくりを進める必要がある。		市民に対して社会教育主事の専門的な指導により、生涯学習をさらに推進する。		山口県より社会教育主事1名の派遣を受け、生涯学習の振興を図るため生涯学習に関する諸計画の立案及び調査研究を実施。			
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)		
事業実施に要する予算額			社会教育主事派遣を受けた人数				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)	
2,681,000 (円)		2,680,380 (円)		1 (名)		1 (名)	
%							

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	負担金補助及び交付金	2,681	2,680,380	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	2,681	2,680,380
合計		2,681	2,680,380	合計		2,681	2,680,380
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	1,884,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
生涯学習を推進するため専門的な指導・助言ができる人材が少ない。	社会教育主事を計画的に増やしていく。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	3		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	1	推進体制の充実			
事業名	社会教育委員との連携								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	1	社会教育一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 (社会教育法)			予算種別	継続			

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市内には生涯学習・社会教育に関する機関・団体などがあるが、相互の連携による事業の展開が十分ではない。そこで、その機関・団体間の連携・協力体制を構築し、家庭・地域・学校を生涯学習・社会教育の場として総合的に捉え、市民一人ひとりが必要とする学習機会を適切に選択できる学習環境づくりを進める必要がある。		社会教育委員が生涯学習の振興を図るため生涯学習に関する諸計画の立案及び調査研究を行う。		会議の開催	
活動指標			成果指標		
会議開催に要する予算額			会議の開催		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
103,000 (円)		85,000 (円)		100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	負担金補助及び交付金	26	27,200	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
	報酬	22	16,000		県支出金 ()		
	旅費	50	38,800		地方債 ()		
	需用費	5	3,000		その他 ()		
					一般財源 ()	103	85,000
合計		103	85,000	合計		103	85,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	1,884,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
より専門性を高めるため研修等の機会を充実させる必要がある。	県の研修等を積極的に活用する。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		文化振興係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	きらら交流館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	7	きらら交流館費
	細目	1	きらら交流館運営業務	細々目	1	きらら交流館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
宿泊研修、野外活動を通じての学習の場並びにふれあい及び交流の場の提供。		市民を対象に、宿泊研修、野外活動を通じての学習の場並びにふれあい及び交流の場の提供。		指定管理者による施設の管理運営を委託。	
活動指標			成果指標		
運営に要する予算額			利用者数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(A/B)	
23,555,000(円)		23,552,960(円)		95.4	
目標値A(単位)		実績値B(単位)		%	
160,000(人)		152,654(人)		%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	69	68,408	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
	役務費	28	27,152		県支出金 ()		
	委託料	17,448	17,448,000		地方債 ()		
	工事請負費	289	289,000		その他 ()		
	備品購入費	5,721	5,720,400		一般財源 (100%)	23,555	23,552,960
合計		23,555	23,552,960	合計		23,555	23,552,960
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.5	3,140,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
開館して10年を経過し、施設の老朽化及び機器等の不備が不具合が増加している。また、衛生面や危険度が今後不安である。	計画的な施設の改修及び機器等の補修が必要。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	1
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	本山公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	2	本山公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するように、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	97 %
6,534,000(円)	6,207,792(円)	20,000(人)	19,327(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	20	14,500	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	1,670	1,628,978		県支出金 ()		
	役務費	171	113,128		地方債 ()		
	委託料	4,547	4,375,586		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	126	75,600		一般財源 ()	6,534	6,207,792
合計	6,534	6,207,792	合計	6,534	6,207,792		

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	2
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	赤崎公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	3	赤崎公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するよう、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	96 %
8,843,000(円)	8,355,081(円)	32,500(人)	31,293(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	529	455,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	3,003	2,949,284		県支出金 ()		
	役務費	170	141,865		地方債 ()		
	委託料	4,547	4,222,522		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	594	586,410		一般財源 ()	8,843	8,355,081
合計	8,843	8,355,081	合計	8,843	8,355,081		

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	3
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	須恵公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	4	須恵公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務			()	予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するよう、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		
運営に要する予算額		利用者数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
6,839,000(円)	6,521,328(円)	11,000(人)	9,395(人)	88%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	21	20,950	財(源割内合訳)	国庫支出金()		
	需用費	2,193	1,929,949		県支出金()		
	役務費	163	145,039		地方債()		
	委託料	4,302	4,300,670		その他()		
	使用料賃借料ほか	160	124,720		一般財源()	6,839	6,521,328
合計	6,839	6,521,328	合計	6,839	6,521,328		

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	4
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	小野田公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	5	小野田公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するよう、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	95 %
1,628,000(円)	1,544,039(円)	15,500(人)	14,657(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	270	267,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	177	149,139		県支出金 ()		
	役務費	20	20,000		地方債 ()		
	委託料	1,100	1,050,000		その他 ()		
	備品購入費ほか	61	57,900		一般財源 ()	1,628	1,544,039
合計		1,628	1,544,039	合計		1,628	1,544,039

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	5
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	高泊公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	6	高泊公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するように、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		
運営に要する予算額		利用者数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
5,298,000(円)	5,200,493(円)	9,200(人)	8,452(人)	95%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	16	9,720	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	746	719,889		県支出金 ()		
	役務費	89	84,401		地方債 ()		
	委託料	4,193	4,191,950		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	254	194,533		一般財源 ()	5,298	5,200,493
合計	5,298	5,200,493	合計	5,298	5,200,493		

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	6
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	高千帆公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	7	高千帆公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するように、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	94 %
1,259,000(円)	1,245,837(円)	30,000(人)	27,920(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	78	71,640	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	役務費	76	75,397		県支出金 ()		
	委託料	1,090	1,090,000		地方債 ()		
	公課費	9	8,800		その他 ()		
	旅費	6			一般財源 ()	1,259	1,245,837
合計		1,259	1,245,837	合計		1,259	1,245,837

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	7
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	有帆公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	8	有帆公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するように、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	94 %
6,603,000(円)	6,068,257(円)	17,500(人)	16,297(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	22	7,980	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	1,788	1,465,955		県支出金 ()		
	役務費	145	100,490		地方債 ()		
	委託料	4,522	4,418,232		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	126	75,600		一般財源 ()	6,603	6,068,257
合計	6,603	6,068,257	合計	6,603	6,068,257		

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	8
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	厚狭公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	33	厚狭公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するよう、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	92 %
6,078,000(円)	5,892,496(円)	23,000(人)	21,435(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	11	2,600	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	2,551	2,414,030		県支出金 ()		
	役務費	117	106,089		地方債 ()		
	委託料	3,194	3,173,702		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	205	196,075		一般財源 ()	6,078	5,892,496
合計		6,078	5,892,496	合計		6,078	5,892,496
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	423,360				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	9
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	出合公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	34	出合公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するよう、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	94 %
4,753,000(円)	4,590,796(円)	12,500(人)	11,732(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	11		財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	1,499	1,369,355		県支出金 ()		
	役務費	110	103,687		地方債 ()		
	委託料	3,000	2,986,506		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	133	131,248		一般財源 ()	4,753	4,590,796
合計	4,753	4,590,796	合計	4,753	4,590,796		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	423,360				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	10
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	厚陽公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	35	厚陽公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するよう、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に要する予算額		利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	91 %
3,999,000(円)	3,933,578(円)	14,000(人)	12,694(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	94	92,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	1,509	1,470,202		県支出金 ()		
	役務費	116	112,955		地方債 ()		
	委託料	1,953	1,950,456		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	327	307,965		一般財源 ()	3,999	3,933,578
合計		3,999	3,933,578	合計		3,999	3,933,578
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	423,360				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	11
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	埴生公民館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	36	埴生公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するように、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		
運営に要する予算額		利用者数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
4,631,000(円)	4,524,185(円)	13,500(人)	12,526(人)	92%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	8	550	財(源割内合訳)	国庫支出金()		
	需用費	1,461	1,405,489		県支出金()		
	役務費	126	98,810		地方債()		
	委託料	2,835	2,819,206		その他()		
	使用料賃借料ほか	201	200,130		一般財源()	4,631	4,524,185
合計		4,631	4,524,185	合計		4,631	4,524,185
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.3	423,360				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	12
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	津布田会館管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	37	津布田会館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館施設開設に伴い発生。	地域住民に対して、安全で利用しやすい快適な施設運営を図る。	地域の生涯学習の拠点として機能するように、経常的な維持管理を行う。		
活動指標		成果指標		
運営に要する予算額		利用者数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
3,145,000(円)	3,038,705(円)	8,800(人)	7,669(人)	86%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	117	116,800	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	776	692,549		県支出金 ()		
	役務費	73	70,244		地方債 ()		
	委託料	2,119	2,114,700		その他 ()		
	使用料賃借料ほか	60	44,412		一般財源 ()	3,145	3,038,705
合計		3,145	3,038,705	合計		3,145	3,038,705

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	423,360

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成20年度より公民館運営を地域に委託しており平成22年度には9館が移行した。民間の館長のスキルアップを図っていく必要がある。	2か月ごとに開催する公民館長会議において社会教育主事が館長を対象に研修を行い、講座の開設といった運営に関する指導・助言の場を設けるなどサポート体制の充実を図っている。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央図書館	No	1
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
15 家庭や地域社会の教育力の向上	1 社会教育の充実	2	社会教育施設の充実
事業名 図書館管理運営事業			
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	001 図書館運営業務	細々目	01 中央図書館管理運営費
事務区分(根拠法令)		自治事務	()
予算種別		継続	経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
家庭や地域社会の教育力の向上を目指すため、市立図書館を設置。平成21年度には、山陽小野田市SOS健康づくり計画の「情報ステーション」の指定を受け、市立図書館の地域情報センターとしての機能の充実と、情報の収集、提供が求められている。また、図書館が利用者にとって安全で快適な施設となるよう、継続的な施設の保守・維持管理と施設の老朽化に伴う計画的な修繕・補修が必要である。	対象：市民 目的・意図：社会教育の中核施設である図書館の機能充実のため、図書館資料の整備、充実を図るほか、資料展示や情報コーナーの充実により図書館の利用増進を図り、家庭や地域社会の教育力の向上を図る。また、図書館利用者が安全で快適に施設を利用できる環境を確保するため、図書館施設の保守及び維持管理を行う。	資料の選書、購入、貸出、レファレンス等の図書館業務のほか、定期的な資料展示、子育て支援情報コーナー、暮らしの情報コーナー、健康づくり情報コーナー等の充実により情報の提供や発信を行う。	
活動指標		成果指標	
入館者数		資料貸出総冊数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
128,000(人)	119,246(人)	255,214(冊)	247,617(冊)
97 %			

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	10,425	9,811,077	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	12,396	12,302,071		県支出金 ()		
	工事請負費	5,831	2,978,850		地方債 ()		
	備品購入費	4,913	4,474,879		その他 (2%)	602	685,923
	その他	3,682	3,662,672		一般財源 (98%)	36,645	32,543,626
合計		37,247	33,229,549	合計		37,247	33,229,549
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		10.9	23,972,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	B 有効性が認められる	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
・図書資料購入費が十分でないため、利用者にとって魅力ある資料が揃えられない。 ・司書資格をもつ正規職員がいないため、専門知識と経験に基づき中心となって事業を進められる者がいない。	・図書購入費の増額 ・適正な人員配置

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央図書館	No	2
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	図書配本回収連絡事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	001	図書館運営業務	細々目	01	中央図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
平成7年の中央図書館開館と同時に読書推進の一環及び市民の利便性を図るため、市内各公民館へブックポストが設置され、このブックポストから貸出蔵書の回収も含めて図書配本回収連絡事業として発足し、職員が公用車を使用して実施している。山陽地区は平成17年合併時より厚狭図書館を中心に同事業を開始した。	対象：図書館利用者 目的・意図：市民に図書館蔵書を貸出した後、返却する際に市内各公民館等の最寄りのブックポストからでも本を返却できるよう市民サービスを向上し、蔵書の利用向上を目指し配本車両で回収することとした。	毎週火曜日と金曜日に、配本車両で職員2名が分館や各公民館及び山口東京理科大学を巡回し、ブックポスト等に返却された図書の回収や予約図書の配本を実施している。また、団体貸出サービスによる図書の配本及び回収を実施。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(A/B)
対象施設数		配本回収回数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	100.9 %
7(施設)	11(施設)	101(回)	102(回)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	120	92,307	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 (100%)		120	92,307	
合計		120	92,307	合計		120	92,307
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.45	878,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
特になし	

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	1
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
15 家庭や地域社会の教育力の向上	1 社会教育の充実	2	社会教育施設の充実
事業名	図書館管理運営事業		
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	3 図書館費	目	3 図書館費
細目	1 図書館運営業務	細々目	2 厚狭図書館管理運営費
会計種別	一般会計		
事務区分(根拠法令)	自治事務	()	予算種別
			継続
			経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
合併により厚狭図書館は地域館という位置づけになった。 厚狭館を古い伝統文化を背景とした山陽地区の中核的な社会教育施設・地域の情報センターとして位置づけ、施設の維持管理、図書館資料の整備・充実を図っている。	市民を対象に、地域の情報センターとして、社会教育の観点から、個人・家庭・地域の教育力の向上に資することを目的とする。	資料の選択、購入、整理、貸出し、レファレンス等のほか、テーマを決めた資料展示などにより、市民が求める情報発信に努めている。 また、市民が施設を安全・快適に利用できるよう施設清掃、設備保守、剪定除草などの業務委託を実施している。	
活動指標		成果指標	
年間入館者数		年間貸出資料数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
26,000(人)	25,081(人)	70,000(冊)	69,137(冊)
99 %			

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)	
支出内訳	需用費	3,595	3,594,251	財(源割内合訳)	国庫支出金	()		
	使用料及び賃借料	2,772	2,636,184		県支出金	()		
	委託料	2,514	2,484,836		地方債	()		
	備品購入費	1,813	1,810,075		その他	()	60	106,389
	その他	146	106,616		一般財源	()	10,780	10,525,573
合計	10,840	10,631,962	合計		10,840	10,631,962		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)					
		5	5,457,065					

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
社会教育の中核施設、地域の情報センターとして、機能の充実、利用者増大により、個人・家庭・地域の教育力の向上を図るため、刻一刻と変化する社会に対応した資料の収集・保有が必要であるが、新聞・雑誌、新刊図書購入費が少なく、利用者に不足感を与えている。	不足がちな情報資料であるが、社会状況に沿った求められる情報資料の展示コーナーを作ったりして、利用者の要望に応じているが、一番の眼目は新聞・雑誌、新刊図書購入費予算を増やすことである。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	2
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	図書館配本回収連絡事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	1	図書館運営業務	細々目	2	厚狭図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
<p>合併後、読書推進の一環及び市民の利便性の向上を図るため、公民館等を中継点とした貸出本の配本・回収を行っている。</p> <p>また、このための巡回を利用した関係施設・市役所・中央館との情報連絡・庶務等を行っている。</p> <p>また、合併前から、関係施設等への移動文庫、各小学校の学級文庫を行い、図書利用の便宜を図っている。</p>		<p>来館が困難な山陽地区の貸出利用者へ、配本・回収の便宜を図ることにより図書利用を増やし、もって広く教育力の向上につなげていくもの。</p>		<p>山陽地区の各公民館、津布田会館にブックポストを設置しており、このポストからの回収、ポスト設置施設を中継点としての貸出本の配本を行っている。</p> <p>移動文庫は山陽地区の7箇所毎月図書を更新を行っている。</p> <p>学級文庫は地区内の各小学校の各学級を対象に学期毎の図書更新を行っている。</p>	
活動指標			成果指標		
対象施設数			配本回収回数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
18(施設)		18(施設)		100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	備品購入費	259	258,734	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	106	105,549		県支出金 ()		
	役務費	19	18,272		地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		384	382,555	
合計		384	382,555	合計		384	382,555

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,427,883

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
各施設の移動文庫については、利用度が高くないところもあると思われるが、実情の把握はしていない。	需要に応じた供給という観点から、他の事業との兼ね合いの中で、需要に応じ実情を把握し、適切な対応をすることが必要。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	青年の家	No	1
-----	------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	青年の家施設管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	8	青年の家費
	細目	1	青年の家運営業務	細々目	1	青年の家運営業務	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
青少年の研修施設として設置されているが、耐震等の問題で2階研修室等の利用を休止している。天文館はボランティアにより運営しているが、老朽化により根本的に見直す時期にある。山陽スポーツ協会の施設、隣の糸根公園と合わせると約7万㎡の自然環境に恵まれた社会教育施設であり、市民が健康・安全に生涯学習のできるような施設整備・充実が望まれる。	天文館及び広大な自然環境を生かした社会教育施設として管理運営を行う。プラネタリウムを操作する会員を増やし、会の充実を図る。	日本で2番目に古いプラネタリウムを要する天文館は、鑑賞者を増やす要因になるが、経費もかかる。立地条件が良く、広大な敷地を生かした運営管理が必要である。体育施設を常用している清掃ボランティア協力者が増えており、市民の憩いの場作りとしての管理体制が有効である。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
施設修繕整備回数		青年の家利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	98.8 %
8(回)	5(回)	2,200(人)	2,164(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	64	64,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	1,243	929,021		県支出金 ()		
	役務費	139	101,061		地方債 ()		
	委託料	1,666	1,626,476		その他 ()	66	71,240
	その他	63	60,138		一般財源 ()	3,109	2,709,456
合計		3,175	2,780,696	合計		3,175	2,780,696

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.8	2,698,960

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	C 必要性について検討が必要である	B 有効性が認められる	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
施設の老朽化に伴い、利用可能な施設がほとんど無い。	植生地区の公共施設の統廃合を含めた検討が必要である。

事業の方向性(一次評価)	
C	事業の抜本的な見直し又は休止・廃止の検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		青年の家		No	2				
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	2	社会教育施設の充実			
事業名	山陽スポーツ協会管理運営事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	8	青年の家費
	細目	1	青年の家運営業務	細々目	1	青年の家運営業務	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
当協会は財団法人として運営しているが、公益法人制度改革により平成25年度までに見直しが必要となる。新財団法人は税制改正法により個人寄付優遇の対象となり、会計・事務処理等が非常に複雑となる。		事務・経理の簡素化を図り、系根公園を視野に入れた全体的な管理運営をしたほうが効率的で市民の憩いの場づくりとなる。		財団法人の見直しにより青年の家を含めた運営管理体制が望まれる。	
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営補助に要する予算額			スポーツ協会利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)		105.2 %
3,500(千円)	3,500(千円)	26,000(人)	26,297(人)		

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	負担金、補助及び交付金	3,500	3,500,000	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	3,500	3,500,000
合計		3,500	3,500,000	合計		3,500	3,500,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		1.2	3,263,440				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
全般的に施設が老朽化していることから、改修が必要である。	植生地区の公共施設の統廃合を含めた検討が必要である。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	社会教育関係団体等の育成・支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	1	社会教育一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
近年、情報化が進む一方、人間関係の希薄化による家庭や地域の教育力の低下、価値観の多様化など、教育を取り巻く環境は大きく変化している。そのため、地域社会におけるスポーツ・文化活動、ボランティア活動の促進などを通じて、子どもたちの豊かな人間性を育み、家庭や地域社会の教育力の向上を図る必要がある。		社会教育関係団体(青年団体連絡協議会、連合女性会、校区女性会、小中学校PTA連合会)の運営費または事業費の全部または一部を補助することにより社会教育の振興を図る。		社会教育関係団体の申請により補助金を交付	
活動指標			成果指標		
補助に要する予算額			交付団体数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)	実績値B(単位)
1,142,073 (円)		1,142,073 (円)		11 (団体)	9 (団体)
					81 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	負担金補助及び交付金	1,297	1,142,073	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()			1,297	1,142,073
合計		1,297	1,142,073	合計		1,297	1,142,073
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,570,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
申請手続きが煩雑なため市職員が関わらざるを得ない。	各団体の役員も毎年変わるケースがあるため手続きの周知後すぐに改善するわけではないが、申請スケジュールも含め徐々に申請方法を周知し団体に申請してもらえるよう促す。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	2	
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)		
	15	家庭や地域社会の教育力の向上		1	社会教育の充実		3 社会教育活動の充実	
事業名	学習機会の整備・充実							
予算費目	款	10	教育費		項	5	社会教育費	
	細目	1	社会教育管理業務		細々目	1	社会教育一般管理費	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続		経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市民の学習ニーズの多様化・高度化に対応するため、施設・設備の機能充実を図るとともに、社会教育に関する機関・団体間の連携による学習環境の充実が求められている。さらに、家庭や地域社会で生じている社会的な課題に対する意識の高揚や社会参加につながるよう、学習機会の充実を図る必要がある。		市民の多様な学習成果を地域社会での様々な活動に活かせるシステムを整備し、家庭や地域社会で生じている社会的な課題を解決する。		家庭や地域社会で生じている社会的課題に対する講座などのうち、全市民的な取り組みが求められる講座等の学習機会を充実させる。(女と男のいきいきカレッジ、高齢者学級)	
活動指標			成果指標		
講座の開催回数			参加者数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
18(回)		15(回)		107%	
目標値A(単位)		実績値B(単位)			
300(人)		323(人)			

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	60	51,000	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
	使用料及び賃借料	80	80,000		県支出金	()	
	旅費	8	5,200		地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	148	136,200
合計		148	136,200	合計		148	136,200
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	628,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
開催場所が小野田地区のため山陽地区からの参加者が少ない。	高齢の方の交通手段はバス、電車のため会場を山陽地区に移すことで改善されるとは限らない。参加したくなる学級づくりのため講座内容の魅力アップに努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	3		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	成人式開催事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	1	社会教育一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
青年が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとすることを祝い励ますことを目的に始まったものです。		新成人(満20歳の市民)を祝い励ますことで、大人としての自覚を促すとともに、ふるさと「山陽小野田市」に愛着をもってもらう。		成人式の開催。	
活動指標			成果指標		
開催に要する経費			出席者の割合		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
340,089 (円)		340,089 (円)		95	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需要費	127	62,289	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	報償費	320	277,800		県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		447	340,089	
合計		447	340,089	合計		447	340,089

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.35	2,198,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
昨今「荒れる成人式」に形容されるように新成人の当日の動向ばかりに目が行き、本来の目的である新成人を祝い励ます場というより当日のスタッフの確保など特に運営面に注意を払わざるを得ない。	新成人にとっては久しぶりに旧友と再会する貴重な場ではあるものの主催者としては円滑に式が進行するよう当日スタッフの確保や運営の配慮に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	4	
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)		
	15	家庭や地域社会の教育力の向上		1	社会教育の充実		3 社会教育活動の充実	
事業名		花いっぱい運動						
予算費目	款	10	教育費		項	5	社会教育費	
	細目	1	社会教育管理業務		細々目	1	社会教育一般管理費	
事務区分(根拠法令)		自治事務			()		予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
花を育て花に親しむことをとおして、環境の美化、青少年健全育成、地域連帯感の醸成などを図る。		市民が花を育て花に親しむことをとおして、環境の美化、青少年健全育成、地域連帯感の醸成などを図る。		花壇コンクールを実施し、優秀な団体及び個人を表彰する。フラワーマップを作成し、ホームページに掲載する。	
活動指標			成果指標		
花いっぱい運動参加団体数			花壇コンクール参加団体数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
60(団体)		59(団体)		84	
目標値A(単位)		実績値B(単位)		%	
50(団体)		42(団体)			

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	438	438,000	財(源割内合訳)	国庫支出金()		
	需要費	157	156,951		県支出金()		
	報償費	75	73,700		地方債()		
					その他()		
			一般財源()		670	668,651	
合計		670	668,651	合計		670	668,651

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.3	1,884,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
育苗を委託している厚陽地区緑と花の推進協議会の会員減少により相対的に団体の負担が増加しており、将来も種から育てた苗配布が可能かどうかの課題がある。	新たな育苗拠点としてみつば園と委託契約。(ただし苗場の面積が少ないことと厚陽地区緑と花の推進協議会のように花に対し専門的な知識がないため今以上の本数の育苗は困難)

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央図書館	No	1
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	学校図書館支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	001	図書館運営業務	細々目	01	中央図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	經常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
子どもの読書離れが懸念される中、文部科学省で平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、翌年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定された。平成16年10月に「山口県子ども読書推進計画」が策定され、本市では、平成18年9月に「山陽小野田市子ども読書活動推進計画」が策定された。この中の施策の一つとして「子ども読書推進班(学校図書館支援チームに改称)」を中央図書館に設置し、図書館から多数の図書を持参して小中学校へ出向き、児童・生徒の読書活動の推進を図ることとなった。	対象：市内小中学校の児童・生徒 目的・意図：児童・生徒が良い本と出会え、読書習慣を身につけられるように読書環境を整え、読書推進の援助をする。	図書館職員が市内小中学校を巡回し、児童・生徒を対象として、図書館の説明、推薦図書の紹介、本の読み聞かせ、本の閲覧・貸出を多目的ルームや体育館で実施する。また、担当教諭に対して図書室運営の助言も併せて実施する。なお、図書の数は、児童・生徒1人あたり当面2冊程度として担当教諭に人数を確認して配本車両で配送する。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
配本冊数		1人あたり冊数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	90.0 %
2,594(冊)	10,635(冊)	2.21(冊)	1.99(冊)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	旅費	487	485,500	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	需用費	167	158,043		県支出金 (99%)	823	823,530
	報償費	120	120,000		地方債 ()		
	備品購入費	49	49,000		その他 ()		
	その他	20	19,290		一般財源 (1%)	20	8,303
合計		843	831,833	合計		843	831,833

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	2.1	7,653,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
・団体貸出用図書が不足しているため、貸出希望を応えられなかったり、貸出先の数を増やせない。 ・十分な図書購入費がないため、児童・生徒が興味を持つような新刊が購入できない。	・図書購入費の増額

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央図書館	No	2
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	読書会等読書普及事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	001	図書館運営業務	細々目	01	中央図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
昭和43年に婦人の教養を深める場の一環として当時の図書館長が講師となり読書会が発足。また、市民の要望により平成4年から児童文学講座が開始。現在は図書館講座、文化講演会、おはなし会等を実施。	対象：市民 目的・意図：市民の社会教育活動の充実に学習機会の増進を図る。	読書会については、図書館の会議室において、同一の著書を会員で読み意見を発表しあい教養を深める。 児童文学講座は、講師に児童文学作家の村中李衣氏を招いて毎月1回開催し、会員の教養を深め交流の輪を広げる。また、図書館講座や文化講演会を年間計画に基づき随時開催する。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
読書会等開催回数		参加者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	216.6 %
63(回)	88(回)	736(人)	1,594(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	380	359,050	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
	旅費	1	800		県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 (100%)		381	359,850	
合計		381	359,850	合計		381	359,850
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		1.6	3,842,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
・図書購入費が十分でないため読書会用図書が購入できず、他館から借りることが多いが、貸出館の都合に合わせての貸出になるため、読書会会員の希望に副えないことがある。	・図書購入費の増額

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央図書館	No	3
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	出前図書館事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	001	図書館運営業務	細々目	01	中央図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	新規	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
<p>入院中にあっても気軽に読書のできる環境づくりと正しい健康・医療情報の提供が求められている。このような背景から、平成22年9月から「病院出前図書館」を開始した。</p> <p>また、乳幼児期の情操教育には絵本の読み聞かせが有効であり、読書習慣にも繋がる。</p>		<p>対象：山陽小野田市民病院、小野田赤十字病院及び山口労災病院の入院患者、1歳6ヶ月・3歳6ヶ月健康診断受診児、文化会館イベント参加者</p> <p>目的・意図：入院中の患者に趣味としての読書をサポートすると共に、病気に対する正しい知識と治療に役立つ情報を提供する。また、乳幼児期の情操教育をサポートし、読書を通じて健全な心身の発達を促す。</p>		<p>毎月1回、対象3病院に本を持参し、入院患者への図書の貸出を行う。また、読みたい本のリクエストがあれば応じる。</p> <p>毎月2回、保健センターに職員を派遣し、1歳6ヶ月・3歳6ヶ月健康診断の幼児を対象に読み聞かせなどを実施。また、毎月1回乳幼児を対象とした文化会館主催のイベントで読み聞かせや本の貸し出しを実施。</p>	
活動指標			成果指標		
実施回数			貸出冊数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
72(回)		76(回)		188.8	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	13	12,334	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	備品購入費	290	264,630		県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 (100%)		303	276,964	
合計		303	276,964	合計		303	276,964

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.45	878,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
特になし	

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央図書館	No	4
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	マタニティブックスタート事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	001	図書館運営業務	細々目	01	中央図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
ブックスタートは平成4年に英国で、絵本を贈る育児支援運動として始まった。国内では平成12年に全国31市町村でスタート。本市では、平成15年度に保健センターや図書館、市内在住の児童文学作家で梅光学院大学教授の村中李衣氏が中心となって推進し、育児で忙しい母親は絵本にまでなかなか心が向かない現状の中で、妊娠中の母親へ母親自身が選んだ絵本を配布し、お腹の赤ちゃんへ読み聞かせるという全国でも例をみない本市独自の方法として確立した。	対象：妊婦(母子手帳交付対象者) 目的・意図：母親がお腹の赤ちゃんに絵本を読み聞かせて、親子でゆったりとしたひとときを過ごしてもらう運動を進めることにより、母親及び乳幼児が早くから本に出会うことができる環境づくりを提供する。	市立図書館や市保健センターで図書館が推薦する3冊の絵本から1冊を選んでもらい、お腹の中の赤ちゃんへ読み聞かせをする方法を説明しながら、その場でブックスタートパック(絵本1冊、ブックリスト、図書館案内、布製のバック)をプレゼントする。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(A/B)
絵本の交付冊数		母子手帳交付人数に対する絵本の交付率		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	102
190(冊)	172(冊)	50(%)	51(%)	
				%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	562	238,560	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 (100%)		562	238,560	
合計		562	238,560	合計		562	238,560

人件費概算	人工数(人役)	人件費(千円)
	0.5	1,192,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
・交付対象者に事業内容が周知徹底できていない。 ・交付後は図書館で乳幼児を対象とした絵本のおはなし会を開催しており、そちらは参加者も増加しつつあり定着してきているので、読書に関心のある母親は積極的にブックスタートパックの交付を受け、おはなし会にも参加していると思われる。今後は、あまり関心のない母親にどのような興味を持ってもらうか検討が必要。	・事業周知方法の検討 ・交付方法の検討

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	1
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	マタニティブックスタート事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	1	図書館運営業務	細々目	2	厚狭図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
<p>ブックスタート事業は、英国で絵本を贈る育児支援として始まり、国内では平成12年にスタートした。本市では、15年度から、全国でも例を見ない妊娠中のお母さんに絵本を選んでもらい、おなかの赤ちゃんへ語りかけるマタニティブックスタートとして事業を開始した。以前は保健センター職員が本を渡していたが、21年度からは図書館職員が本を渡すこととし、図書館職員による事業の趣旨の説明と読み聞かせの指導をしている。</p>		<p>妊婦を対象に、母親が絵本を持って胎児へ語りかけることにより、妊婦と胎児双方への情操を高めさせるとともに、「親から乳幼児への読み聞かせ」「本に親しむことのできる子ども」へとつなげていく端緒とするもの。</p>		<p>図書館職員が保健センターで、母子手帳を受けた妊婦に対し、事業の趣旨説明、図書館が選んだ絵本のブックトーク、読み聞かせ方法を指導。 3冊のうち1冊を選んでもらい、おなかの赤ちゃんへの語りかけの方法を説明し、ブックスタートパック(絵本1冊、リーフレット、赤ちゃん絵本のリスト、布製バッグ)をプレゼントしている。</p>	
活動指標			成果指標		
年間絵本交付冊数			母子手帳被交付者に対する絵本交付率		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
144(冊)		144(冊)		100	
目標値A(単位)		実績値B(単位)		%	
100(%)		100(%)		%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	158	157,150	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		158	157,150	
合計		158	157,150	合計		158	157,150
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,113,883				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	2
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	おはなし隊事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	1	図書館運営業務	細々目	2	厚狭図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
<p>本に会うことのできる環境づくりはマタニティブックスタートから始まるが、幼児期・就学前児童に対しては、特に行政としての取り組みはなかった。このため、平成22年度から、山陽地区の幼稚園に対し、園に出向き本の読み聞かせ活動を「おはなし隊」として始めた。</p>		<p>山陽地区内の幼稚園(2園)へ、図書館職員がおはなし隊として出向き、園児への紙芝居(テレ芝居)、読み聞かせを行い、園児とふれあう中で、絵本への愛着、その後の本・図書館への親しみへと、つなげようとするもの。</p>		<p>幼稚園に2か月に1回の割合で職員3~4人が出向き、テレ芝居、職員が分散しての読み聞かせ等で園児とのふれあいを持つ。 園へ出向いた折に50~100冊の絵本を園へ一定期間、貸与している。</p>	
活動指標			成果指標		
年間活動回数			活動対象園数/山陽地区内の幼保育園数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	成果指標の到達度(B/A)	
12(回)	12(回)	18(%)	18(%)	100%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
					一般財源	()	
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,113,883

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
<p>地区内の幼稚園(2園)だけでなく、今後は保育園等、多くの就学前児童に対し、おはなし隊事業を拡大していきたいが、他の事業や職員数の関係で一気には進められない。</p>	<p>新しく有意義な事業の対象範囲を広げるためには、職員の増員が必要。 また、読み聞かせボランティアの育成・活用の検討も方法として考えられる。</p>

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	3
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	出前図書館事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	1	図書館運営業務	細々目	2	厚狭図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
子どもの読書離れの中、国は平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、県も16年に『県子ども読書推進計画』を策定した。本市も18年9月に「子ども読書活動推進計画」を策定した。この計画に基づき、本市の図書館として19年度から「出前図書館」と称して、中央館と協力して市内小・中学校に出向き、児童・生徒を対象にした図書館の利用案内、おすすめ本の紹介、本の閲覧・貸出を行っている。	対象：市内の小・中学校の児童・生徒 目的・意図：児童・生徒が良い本と出会え、読書習慣が身につくよう、読書推進の援助をするもの。	図書館職員が各学校に年1回の割合で出向き、児童・生徒を対象に図書館の説明、利用案内、おすすめ本の紹介、読み聞かせ、閲覧・貸出を多目的ルームや体育館で実施する。 また、図書担当教諭に対して図書室運営の助言等も併せて行う。 なお、持参図書数は、対象児童・生徒1人あたり2冊程度。		
活動指標		成果指標		
実施回数		年間配本冊数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値(単位)	実績値(単位)	
19(回)	19(回)	800(冊)	800(冊)	100%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.25	1,113,883				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
図書購入予算が少ないため、団体貸出用図書に限られ、児童・生徒が興味を持つような新刊本の貸出希望に応えられないことが多い。	図書購入予算の増額。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	4
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	その他の読書活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	1	図書館運営業務	細々目	2	厚狭図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
図書館が主体的に行う読書活動の推進事業だけでなく、市民ボランティアによる読み聞かせグループや読書会サークル、公民館等の公共施設、小・中学校の図書室に対して公立図書館として側面支援を行うもの。		読み聞かせボランティアグループ、読書会サークル、公民館等公共施設や小・中学校の図書室を支援することにより、多くの市民、子どもたちが、より多く本に親しむことができる環境をつくることにより、地域の教育力の向上に努めるもの。		公民館等公共施設でのテーマ本の展示、公民館等公共施設、小・中学校の図書室のリニューアルアドバイス、おはなし会の委託、読み聞かせボランティアグループ・読書会サークルへの会場提供、配本支援を行っている。	
活動指標			成果指標		
年間読書会等活動回数			年間参加者数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
74(回)		74(回)		100	
目標値A(単位)		実績値B(単位)		%	
884(人)		884(人)		%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	75	75,000	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		75	75,000	
合計		75	75,000	合計		75	75,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,113,883

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	5
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	社会教育推進事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	3	図書館費
	細目	1	図書館運営業務	細々目	2	厚狭図書館管理運営費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
合併により厚狭図書館は地域館という位置づけになった。厚狭館を古い伝統文化に育まれた山陽地区の社会教育の中核施設、地域の情報センターとして地域住民の期待に応え、発展させていかなければならない。 社会教育、生涯学習に関わる各種行事・イベントを企画・実施し、地域住民の教育力の向上に資するとともに、図書館利用者の増大に努めようとするもの。	市民に対し、地域の教育力の向上、図書館利用者の増大を図る。	生涯学習教室(俳句教室、古文書学級)の主催、各種講演会、各種の企画展示、単発教室の開催、文化財めぐり等を実施。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
年間行事開催回数		年間参加者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	92 %
68(回)	68(回)	1,000(人)	915(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	182	181,251	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	報償費	200	200,000		県支出金 ()		
	役務費	58	57,413		地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		440	438,664	
合計		440	438,664	合計		440	438,664

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1.5	6,683,299

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課 題	改 善 策

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	厚狭図書館	No	6
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
15 家庭や地域社会の教育力の向上	1 社会教育の充実	3	社会教育活動の充実
事業名 社会教育支援事業			
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 図書館運営業務	細々目	2 厚狭図書館管理運営費
事務区分(根拠法令)		自治事務	()
予算種別		継続	経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
厚狭図書館を利用する地域住民を中心とした自主的な生涯学習グループを支援することにより、地域の教育力の向上、図書館利用者の増大につなげようとするもの。	地域の自主的な生涯学習グループを支援することにより、地域の教育力の向上、図書館利用者の定着・増大を図る。	自主的な生涯学習教室(現在8教室)に対する会場提供。 厚狭図書館友の会、文化財愛護会との相互協力。	
活動指標		成果指標	
年間行事開催回数		年間参加者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
168回	168回	2,000人	1,852人
			成果指標の到達度(B/A) 93%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計	0	0	一般財源		()		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計	0	0	
		0.3	1,427,883				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課 題	改 善 策

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	1
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	公民館運営審議会事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	1	公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 (社会教育法)			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
社会教育法第29条第1項に基づき、条例で山陽小野田市に一つの公民館運営審議会を設置。年2回(5月、11月)に開催。	公民館運営審議会委員が公民館事業・運営について審議を願う	会議の開催、公民館主催の各種行事への参加依頼		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
会議開催に要する予算額		会議回数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	100
23,000 (円)	23,000 (円)	2 (回)	2 (回)	
%				

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	28	23,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		28	23,000	
合計		28	23,000	合計		28	23,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.15	942,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成13年7月11日社会教育法が改正され、「公民館に公民館運営審議会を置く。」から「置くことが出来る。」と出来る規定になった。	各地区に設置している公民館運営協議会や社会教育委員会において会議を代えられるか検討する。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	2
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	公民館連絡調整事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	1	公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館(津布田会館含む)は、12の各小学校区に設置された生涯学習の拠点であり、多くの市民や団体等の利用があるが、その多くは老朽化が進み、備品等も含めて修繕や改修が必要となってきた。公民館の管理運営を公平かつ計画的に進めるため、中央公民館を設置し、その支援や調整を図る。	中央公民館で諸事務の調整を行うことで、各施設の均衡調整を図る	各館が抱える問題や共通課題の解決を図るため、定期的な連絡会議の開催や情報の提供・共有を図る。また効率的な予算配分・執行を行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
参加公民館数		公民館長会議、公民館主事会議開催回数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	100 %
12(館)	12(館)	12(回)	12(回)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	4,553	4,530,899	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		4,553	4,530,899	
合計		4,553	4,530,899	合計		4,553	4,530,899
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	4,396,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
委託館の経費を適正に管理・削減するため、館の維持管理に要する経費を中央公民館で管轄する方式へ変更したが、当初より担当職員の仕事量が増加している。	業務分担の見直しが必要。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	3
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	本山公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	2	本山公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
クラブ数	参加のべ人数			
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	95 %
21(クラブ)	20(クラブ)	6,300(人)	6,010(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.6	846,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	4
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	赤崎公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	3	赤崎公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
クラブ数		参加のべ人数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	99.5 %
29(クラブ)	29(クラブ)	11,000(人)	10,950(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.6	846,720

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	5
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	須恵公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	4	須恵公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
クラブ数		参加のべ人数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	102
28(クラブ)	29(クラブ)	6,400(人)	6,525(人)	
				%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.6	846,720

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	6
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	小野田公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	5	小野田公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
クラブ数		参加のべ人数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	96 %
33 (クラブ)	33 (クラブ)	11,000 (人)	10,572 (人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.6	846,720

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	7
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	高泊公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	6	高泊公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
クラブ数		参加のべ人数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	94 %
16(クラブ)	15(クラブ)	5,700(人)	5,385(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.6	846,720

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	8
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	高千帆公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	7	高千帆公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
クラブ数		参加のべ人数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	99 %
37(クラブ)	37(クラブ)	14,000(人)	13,886(人)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.6	846,720

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	9
-----	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	有帆公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	8	有帆公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。		
活動指標		成果指標		
クラブ数		参加のべ人数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
25 (クラブ)	26 (クラブ)	6,000 (人)	6,398 (人)	107 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.6	846,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	10
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	厚狭公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	33	厚狭公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
クラブ数	参加のべ人数		98 %	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)		実績値B(単位)
35 (クラブ)	34 (クラブ)	13,600 (人)		13,267 (人)

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計	0	0	一般財源		()		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計	0	0	
		0.6	846,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	11
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	出合公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	34	出合公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。		
活動指標		成果指標		
クラブ数		参加のべ人数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
15(クラブ)	15(クラブ)	6,000(人)	5,980(人)	99.7%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.6	846,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	12
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	厚陽公民館クラブ活動支援事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	35	厚陽公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。		
活動指標		成果指標		
クラブ数		参加のべ人数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	
19(クラブ)	17(クラブ)	3,800(人)	3,435(人)	90%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計	0	0	一般財源		()		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計	0	0	
		0.6	846,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	13
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
15 家庭や地域社会の教育力の向上	1 社会教育の充実	3	社会教育活動の充実
事業名 埴生公民館クラブ活動支援事業			
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 公民館運営業務	細々目	36 埴生公民館一般管理費
事務区分(根拠法令)		自治事務	()
		予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。	
活動指標		成果指標	
クラブ数		参加のべ人数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
28 (クラブ)	26 (クラブ)	6,888 (人)	6,888 (人)
			成果指標の到達度 (B/A)
			100 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計	0	0	一般財源		()		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計	0	0	
		0.6	846,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	14
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
15 家庭や地域社会の教育力の向上	1 社会教育の充実	3	社会教育活動の充実
事業名	津布田公民館クラブ活動支援事業		
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 公民館運営業務	細々目	37 津布田公民館一般管理費
目	2 公民館費	会計種別	一般会計
事務区分(根拠法令)	自治事務	予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館主催講座を卒業した人たちが自主的に組織したグループ等を公民館クラブとして認定。地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与するために、公民館を定期的を使用し、自主的に学習活動を行っている。	地域社会の文化・教養及び福祉の向上に寄与する。市民の自発的な学習を支援。	定期的に公民館の使用を認める。使用料については減免し、運営に要する費用は会費でまかなう。	
活動指標		成果指標	
クラブ数		参加のべ人数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
13 (クラブ)	12 (クラブ)	2,046 (人)	2,046 (人)
			成果指標の到達度(B/A)
			100 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計	0	0	一般財源		()		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計	0	0	
		0.6	846,720				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
クラブ員の固定化(高齢化)が進んでいる。	受講生に対して、さらに学習活動の自主グループ化を促す必要あり。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	15
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	本山公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	2	本山公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数	受講者数/市民(校区住民)(%)		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
55 (講座)	54 (講座)	35 (%)	36 (%)
			102 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計		0	0	一般財源		()	
				合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	16
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	赤崎公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	3	赤崎公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だけでなく、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数	受講者数/市民(校区住民)(%)		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
50(講座)	41(講座)	30(%)	25(%)
			83%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	529	455,000	財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	529	455,000
合計		529	455,000	合計		529	455,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	17
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)	
15 家庭や地域社会の教育力の向上	1 社会教育の充実	3	社会教育活動の充実
事業名 須恵公民館主催講座事業			
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 公民館運営業務	細々目	4 須恵公民館一般管理費
事務区分(根拠法令)		自治事務	()
予算種別		継続	経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だけでなく、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
90 (講座)	77 (講座)	20 (%)	13 (%)
			成果指標の到達度(B/A)
			65 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	18
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	小野田公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	5	小野田公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だけでなく、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
40(講座)	29(講座)	10(%)	5(%)
			成果指標の到達度(B/A)
			50%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	270	267,000	財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	270	267,000
合計		270	267,000	合計		270	267,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	19
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	高泊公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	6	高泊公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。

活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	97 %
100 (講座)	137 (講座)	35 (%)	34 (%)	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.7	987,840

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	20
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	高千帆公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	7	高千帆公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
100 (講座)	140 (講座)	30 (%)	27 (%)
			成果指標の到達度(B/A)
			90 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
				一般財源 ()			
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	21
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	有帆公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	8	有帆公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
40(講座)	42(講座)	25(%)	18(%)
			成果指標の到達度(B/A)
			72%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	22
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	厚狭公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	33	厚狭公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
180(講座)	151(講座)	35(%)	32(%)
			成果指標の到達度(B/A)
			91%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	出合公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	34	出合公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
60 (講座)	47 (講座)	50 (%)	55 (%)
			成果指標の到達度(B/A)
			110 %

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計		0	0	一般財源		()	
				合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	中央公民館	No	24
-----	-------	----	----

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	厚陽公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	35	厚陽公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だけでなく、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数	受講者数/市民(校区住民)(%)		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
90(講座)	107(講座)	60(%)	81(%)
			135%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	114	92,000	財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	114	92,000
合計		114	92,000	合計		114	92,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実			
事業名	埴生公民館主催講座事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	2	公民館費
	細目	1	公民館運営業務	細々目	36	埴生公民館一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数		受講者数/市民(校区住民)(%)	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
30(講座)	19(講座)	15(%)	10(%)
			成果指標の到達度(B/A)
			67%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
				一般財源	()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	3	社会教育活動の充実
事業名	津布田会館主催講座事業					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	公民館運営業務	細々目	37	津布田会館一般管理費
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
公民館における社会教育推進を図るため、成人講座、女性講座、青少年講座、家庭教育講座、高齢者講座、親子講座、人権教育講座、歴史講座、パソコン講座など市民のニーズにあった講座を開設。	地域課題を解決するため、地域の学習拠点施設である公民館が主体となって、必要な講座・教室を開催し、地域住民の学習を支援する。	地域住民の生涯学習ニーズを把握し、講座を企画。受講生の募集を公民館だより、楽集、市ホームページ等で行う。	
活動指標		成果指標	
講座数	受講者数/市民(校区住民)(%)		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
30(講座)	35(講座)	35(%)	33(%)
			94%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	117	116,800	財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()	117	116,800
合計		117	116,800	合計		117	116,800
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	987,840				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
一部内容のマンネリ化。受講生の固定化がみられる(公民館運営審議会意見)。また若い世代の受講者が伸び悩んでいる。	利用者にアンケート等を行い利用者のニーズの把握に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	15	家庭や地域社会の教育力の向上	1	社会教育の充実	4	学校教育と社会教育の連携			
事業名	地域活動体験事業								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	1	社会教育一般管理費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順			
家庭や地域の教育力の低下に伴い、子どもたちの生活体験や自然体験が乏しくなっている一方で、学校教育では、これからの変化の激しい社会にあって自ら学び、自ら考えるという「生きる力」の育成が求められている。		学校教育と社会教育の連携を図り子どもたちに対して、生活体験や、自然体験、職場体験などの体験活動の充実を図る。		体験活動の実施(ほたる祭り開催に伴うボランティア活動)			
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)		
体験活動実施回数			参加者数				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)	
1(回)		1(回)		15(人)		10(人)	
67 %							

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()		
合計		0	0	合計		0	0

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.05	314,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
年々参加者が減少している。	関係団体等と協議しながら募集方法について検討をする。また新たな活動の場についても検討する。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		社会教育課		生涯学習係		No	2
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	15	家庭や地域社会の教育力の向上		1	社会教育の充実		4 学校教育と社会教育の連携
事業名	学校教育と社会教育との連携事業						
予算費目	款	10	教育費		項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務		細々目	1	社会教育一般管理費
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市民を対象に平成12年度から国の補助事業で購入したパソコンで公民館において、IT講習を開催していたが、その機能やソフトが古くなっている。更新するにはソフトハード両面で多額の費用を要するため、最新の設備を導入している理大を会場に教室を実施する。		大学と連携を図り市民に対して、生涯学習活動の充実を図る。		生涯学習推進のため大学の教育・研究に関する人的・知的資源を活用し、講師及びパソコンを含む場所など山口東京理科大学が主体となって事業を進める。市は補助員の賃金の負担や広報紙による広報を実施する。	
活動指標			成果指標		
開催回数		参加者数		成果指標の到達度(B/A)	
目標値(単位)		実績値(単位)		100	
1(回)		1(回)		50(人) 67(人)	
%					

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳				財(源割内合訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		()		
合計		0	0	合計		0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.05	314,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
近年のパソコン、インターネットの普及に伴いパソコン講習に対しての要望が多くなることが予想される。	今後も大学と連携を図る中で検討する必要がある。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--